



ROTARY INTERNATIONAL

OITA JOSAI

国際ロータリー 第2720地区
大分城西ロータリークラブ
〒870 大分市府内町トキハ会館3階
PHONE 32-0611 FAX 32-8386

週報

例会日 毎週水曜日 P.M.12:30~13:30
例会場 大分西鉄グランドホテル
会長 古城 敏雄
幹事 糸園紀一郎
会報委員長 浅井 康行



おおいたの城10景

堀 府内城(大分)

寺司 勝次郎



基礎づくりに多大の貢献をなされた志賀会長に敬意と感謝の意を表する次第でございます。この項の例会からは、会長の時間を気にされずにゆっくりと食事をしていただきたいと思います。

堀永幹事におかれましては、我がクラブの創立に際し、キーマンとしてご尽力賜りました。そして、引き続き幹事として、見事会務をスムーズに遂行させ、重責を果たされました。私たちが何気なく例会に出席し、何気なく退席しておりますが、その蔭には堀永幹事の並々ならぬご苦勞があるのであります。ホームクラブ出席100%を続けて来られたのも、クラブ例会を思えばこそであります。堀永幹事のご功績に対し心よりお礼を申し上げます。

会員の皆さん、まもなく新年度が始まります。今年度築いた土台の上に立って、さらにすばらしいクラブづくりに励めようではありませんか。どうもありがとうございました。

会長・幹事挨拶

奉仕の心に ときめきを

会長 古城 敏 雄

我が大分城西ロータリークラブも3年度目を迎えました。年度始めに当たり一言ご挨拶を申し上げます。

20世紀もあと10年足らずとなりました。私たちは21世紀を展望し、21世紀のロータリーがどうあるべきかを考え、この10年間の課題を設定する必要があります。

今年度の国際ロータリーのテーマは

自分を越えた眼を

— Look Beyond Yourself —

であります。そして、ラジェンドラ・K・サブー R I 会長は、「ロータリアンであるということは、自分を越えた眼を持つということである。単なるクラブ会員か、ロータリアンかの岐れ道がここにある。」と述べておられます。

また、R I 第2720 地区伊東眞純ガバナーは新年度地区運営方針として、次の4項目を重点施策として提唱されております。

1. クラブに充電しよう
2. 若い人と手をつなごう
3. ロータリー財団と米山奨学会に力を
4. 地球に愛を緑を

そして、「ロータリー活動は自己研鑽と積極的奉仕に努めることだと信じます。思いやりに出発して、世のため人のために尽くし、それが自分自身の修練につながるのではないのでしょうか。」と所信を述べておられます。

以上のようなテーマ、施策等の掲載されたガバナー所信が私の手許に届いております。さて何からどのように始めたらよいのか、テーマを理解しこれを実践に移すにはどうしたらよいのか、当分頭の痛い日々が続くそうです。

大分城西ロータリークラブの当面の重要課題は、何と言っても会員増強であります。今年度は少なくとも10名の増強を図りたいと考えております。もちろん頭数をそろえるというのではなく、伊東ガバナーの所信にもありますように“世のため人のために尽くす”人材を発掘していただきたいのであります。それがクラブを強

化することになります。具体的には会員選考委員会の選考基準を参考にして、会員候補者の推せんをお願いいたします。また、会員増強委員会におかれましては、3人1組1人の候補者推せん運動を推進していただきたく、ご活躍を期待する次第でございます。

次に、前年度の志賀会長は、“ロータリーを楽しみ、クラブの活力を高めよう”を会長方針として、クラブの親睦に重点をおかれ、明るくさわやかなクラブづくりに専念されました。そのご尽力によりクラブの基礎は固まりました。私はその基礎の上に立って、今年度は奉仕活動に重点をおきたいと考えます。親睦と奉仕は車の両輪だと言われています。会員相互の親睦を図りながら、奉仕活動に励もうではありませんか。

ところで、奉仕の問題ですが、近時の奉仕は金品のみに依存する傾向にあるように思われます。しかし、お金を出すだけで本当に奉仕をしたといえるでしょうか。そこに真心が感じられるでしょうか。「ロータリー入門書」を執筆された前原勝樹パストガバナーは、こんな話を紹介しています。ある眼の不自由な人に、「ロータリーのことをどう思うかね」と問うたところ「白い杖は方々からもらって、もう5本もたまりました。杖を下さるのもいいが、交差点で手をひいて渡してくれた子供さんの方がずっと有難かったですよ」という答が返って来たということです。そして、ここに善意の問題があることを指摘しておられます。

私たちのクラブも学校に図書券を贈呈することを継続事業としています。しかし、ただ単に

贈呈するだけで終わってよいものでしょうか。例えば、図書券で購入した本の読書感想文を发表してもらい、ロータリアンがこれに対する感想を述べるなどはいかがでしょうか。そこに子供たちとのふれあいが生じます。子供たちがさらに読書に興味をもつことにもなるでしょう。

ロータリアンは奉仕をするうえで積極的に身体を動かす必要があると思います。もっともっと創意と工夫があってしかるべきです。そこに感動が生れるのです。ときめきとはこんな時に感じるのではないのでしょうか。私は今年度の会長方針として“奉仕の心に ときめきを”ということ提唱いたします。奉仕の心にときめきを注入することによって、奉仕活動は生き生きと輝き、個性豊かな活動が展開されることであらうでしょう。

私たちは各分野においてそれぞれ専門家であります。一つのテーマを定めて、それに関連する専門家(会員)が英知を集め、何か継続的な奉仕活動をするということはできないでしょうか。そしてその中に、地域において同趣旨の(又は類似の)活動をしている人又は団体を支援することも加えれば、非常に効果的であり、地域に根づいたロータリー活動が実現します。

例を高齢者問題にとってみますと、我が国は確実に高齢社会になります。特に大分県は他県に比べて早いと聞いています。そのような将来(21世紀)を展望し、今私たちにできることは何か。高齢社会を見つめ、60才からの生き方と言え少々大げさかも知れませんが、60才からの福祉、60才からの年金、60才からの夫婦関係、親子関係、60才からの住居、60才からの健康、

死とは何か、延命医療、尊厳死問題等について、私たち会員が専門家の立場から、何か地域社会において活動することはできないでしょうか。

次に環境問題です。伊東ガバナーの掲げた重点施策の1つに「地球に愛を緑を」があります。地球環境の破壊は由々しき問題です。オゾン層破壊、森林破壊、酸性雨の影響等々……。私たちはまず自然環境に関するあらゆる問題について理解を深めるとともに、環境保全運動にどう対処するかを検討しなければなりません。この運動は政治とも密接に関連するだけに、ロータリアンとしてどんな方針で臨むか非常に難しい問題です。

身近なところから考えてみましょう。まず自宅において、フロンガスは使っていないか、食用油はどう処理しているか、環境にやさしい台所用品を使っているか。次に事業所は環境破壊にかかわっていないか、規制基準を遵守しているか。そして自宅や事業所の周辺において、例えば川は汚染されていないか、空き缶やゴミは取り除かれているか。このように身近なところから次々に拡大されて行き、結局は地域社会の問題になってしまいます。この環境保全運動こそ、地域に根づいた活動をしなければ実効性がないように思います。ですから、私たちは常に地域住民を念頭において、環境破壊の実態を訴え、保全の必要性を説き、率先して保全運動を実行し、かけがえのない自然を守らなければならないと思います。

当クラブは今年度から環境保全委員会を新設しました。改正したクラブ細則にその趣旨を明記してありますが、当クラブ創立の日（4月22

日）がアースデー（地球の日）でした。その意味からも、地球環境保全運動は当クラブのメインテーマとして、継続的に活動して行きたいのです。“バナーによせて”の執筆にあたり、このことが念頭にあったことを申し添えます。なお、環境保全委員長は、折にふれ環境問題のお話をして来られた志賀前会長でございまして、今色々と企画されているようですので、期待しているところでございます。

最後に、例会プログラムについて触れてみたいと思います。すでにプログラム委員会、出席委員会、SAAなどを中心に、ユニークな企画が始動しております。新しい会員の新しい目で例会のあり方を見直してみたいかがでしょうか。もっとクラブフォーラムを取り入れていただければと思っております。ゲスト卓話も少し工夫してみたいかがでしょうか。ゲストは何も有名な肩書をもつ人に限られるわけではありません。ボランティア活動をなさっている人、任意団体や同好会の責任者等、地域で地道に活躍している方々を見つけて、卓話をお願いするのもよいと思います。そして重要なことは、卓話だけにとどまらず、その後もつながりをもつことです。そうすることによって、地域にロータリー活動が理解されて行くものと考えます。

ロータリー活動の理解といえ、身近な人の理解も大切です。会員夫人の例会への出席の機会をもつ企画はいかがでしょう。また、職場の人。社長は 時になると「ロータリーに行ってくる」と言って出掛けるが、どんな所に、何をしに行くのだろうかという疑問を抱いている従業員はいないでしょうか。最も身近な職場の人に

理解していただくため、従業員の方にも例会に出席する機会をもつようにしてはいかがでしょうか。

以上、会長方針を中心に思いつくままに述べて参りました。詳細は7月10日のクラブ協議会に譲りたいと思いますが、会員の皆様にはすでに奉仕活動計画を策定されているようですので安心しております。皆様方の並々な熱意は、去る6月12日の延々3時間半に及ぶクラブ協議会で実証済みであります。ある委員長は企業戦略のお話をしているのではないかと錯覚するほどに、奉仕活動を多角的に捉えておりましたし、また、ある委員長は川柳まがいの標語で活動方針を打ち出すなど、ユニークさを印象づけておりました。

このように、万全の体制でスタートできますことを嬉しく思っております。この1年健康に留意して精一杯頑張ります。会員の皆様のご協力、ご支援を心よりお願い申し上げまして、私のご挨拶といたします。

幹 事 挨 拶

糸 園 紀一郎

‘91～’92年度の幹事をおおせつかりました。私はノンポリで余り熱心なロータリアンではありませんが、今度はそうはいきません。にわか仕込の勉強をして、古城会長のテーマ「奉仕の心にときめきを」を推進していくつもりです。

城西ロータリークラブ創立以来1年数ヶ月ですが、新しい友情が広がって来たことに大きな喜びとしております。我がクラブの今期は会員

増強と奉仕活動に力を入れていくということで、お互に親睦を深め、寛容の精神をもってやっていくことが大切ではないかと思ひます。

幹事は例会だけでなくいろんな行事に参加することになると思いますが、古城ピッチャーが豪速球を投げようとカーブを投げようと体で受けとめたいと考えてます。このためにはサインの打合せが大切かと思ひます。

皆様のご協力なくしては出来ません。どうかご協力の程、お願い申し上げます。

先ず最初の仕事は、会費の請求であります。どうぞよろしくお願い致します。

奉 仕 の 理 想

奉仕の理想に集いし友よ
御国に捧げん我等の業
望むは世界の久遠の平和
めぐる歯車いや輝きて
永久に栄えよ我等のロータリー

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか